

## IV. 社会貢献活動

### 1. 社会貢献の目標

1. 大分大学は、地域拠点大学として、教育・研究・医療の成果を地域社会に還元することにより、地域社会との連携と共存を図り、その発展に貢献する。
2. 大分大学は、国際的な拠点大学として、広く世界に目を向けて交流を進める。特に、アジア諸国との特徴ある国際交流を推進する。

(大分大学憲章：社会貢献の目標)

### 2. 地域との連携

#### 2.1. 産学連携と倫理規定

(現状)

本年度は、本学の教職員が産学官連携を進めるに当たって生ずる利益相反(責務相反)の定義並びにマネジメント体制等の基本的な考え方を示した「利益相反ポリシー」を策定した。また、今後、利益相反に関する学内ルールやガイドライン及びマネジメント方法等の具体的事項について産学官連携推進部門会議で検討し、策定する予定にしている。

(評価)

「利益相反ポリシー」を策定したことにより、本学教職員が産学官連携を進めるに当たっての利益相反(責務相反)への認識・責任感等が養われた。

#### 2.2. 地域産学官交流

(現状)

地域産学官交流は、地域共同研究センターが主体となり、大分大学地域共同研究センター産学交流振興会、地域の工業団体、商工団体、自治体等と連携して地域産学官交流の促進を図っている。

本年度は大分市、宇佐市において産学交流会を実施したほか、出張相談会、研究シーズ発表会、金融機関対象の産学連携に関する講習会等を開催した。(資料 2.2-1、資料 2.2-2)

金融機関対象の産学連携に関する講習会修了者には産学連携支援コーディネーター(大分大学認定)の称号を与え、地域のニーズ収集にあたる活動を開始する予定である。

また、大分県工業団体連合会が中心であった産学官連携推進会議や大分市が実施している産学交流サロンに対しても積極的に協力し参加している。

MOTに関する講義については大学院生を対象として開講しているが、社会人にも開放している。また、「地域MOT推進協議会」を発足し地場企業の技術経営の促進を図っている。

(評価)

地域単位の産学交流会や相談会等も盛んであり、地域連携推進会議等への参加も積極的に進められている。

資料 2.2-1 産学官連携事業

事業名	実施月日	対象者(参加者数)	実施場所	回数	備考(共催等)
研究コーディネータ制度	通年	県内企業, 大学教員, 学生(314)	学内他	314	
豊和銀行出張技術相談会	5. 18 ～1. 16	企業経営者, 大学教員(70)	豊和銀行本店・支店	4	商工会議所, 工業連合会

地域共同研究センター 設立 10 周年記念事業	6. 2	県内企業, 大学教 員, 学生 (200)	工学部 104 号教 室	1	
大分市産学交流会	7. 25	加入企業経営者, 学内教員 (90)	ソフトパーク	1	
大分県地域研究シーズ 発表会	11. 18 ～12. 16	企業経営者, 技術 者 (130)	iichiko 総合文 化センター他	5	大分県, 県産業 創造機構, 県内 研究教育機関,
宇佐市産学交流会	12. 5	企業経営者, 学内 教員 (60)	パブリック 21	1	
大分市産学交流サロン	17. 11. 24 18. 1. 24	大学, 高専, 企業	アートプラザ	2	大分市
MOT セミナー	18. 3. 4 3. 18	県内企業 (55/回)	ソフトパーク, 労働福祉会館ソ レイユ	2	
技術研修会 (産学連携 講座)	18. 3. 25 ～18. 10	銀行員 (20/回)	豊和銀行, 大分銀 行, 大分みらい信 用金庫	19	

資料 2. 2-2 産学官連携推進会議 産学官交流研究グループ参加者

グループ名	主任*	参加者 (人)*
超精密加工と関連装置の開発設計と製造工 程の研究	工学部助教授	センター員 2
生物系材料の建築部材への有効利用	工学部教授	工学部教員 1
光デバイスとその応用技術研究	日本文理大学工学部 教授	センター員 2, 工学部教員・ 技術職員各 1
機能性食品の開発・製品化に向けての研究	教育福祉科学部教授	センター員 3, 工学部教員 2
トレーサビリティ研究会	工学部教授	経済学部教員 2, 工学部教員 1
新しい食品加工技術の調査研究	工学部教授	センター員 1
* ; センター員は大分大学地域共同研究センター員。学部のみは本学の学部の人数。		

## 2. 3. 自治体との連携

(現状)

平成 16 年度において、自治体との連携を社会連携の柱として位置付け、県内全ての市と協定を締結することを方針とし、本年度は大分県をはじめとして、1 県及び統合・合併を終えた 9 市と相互協力協定を締結し(資料 2. 3-2)、各自治体における諸課題の解決に取り組んでいるところである(資料 2. 3-1)。

(評価)

統合・合併を待って締結しているため、ほぼ予定通りの締結が進んでおり、自治体からの要請に応じて事業を推進している。

資料 2. 3-1 自治体との連携実施状況

自治体	ワーキング 開催状 況	事業の実施状況及び協議・計画事項

大分市	16. 11. 29	<p>(実施事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分市と本学および武蔵野美術大学との連携事業・「ムッチャン平和像」メンテナンス作業(17. 6. 26)</li> <li>・入札監視委員会委員 宇野稔教授(総務部契約検査室)</li> <li>・都市計画課 「まちなか研究室」工学部佐藤誠治教授</li> <li>・企画部市長室 「お出かけ市長室」 8/30 大分大学の学生による大分市長への提言</li> </ul> <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工部商工労政課 大分市商圈消費者動向調査</li> <li>・商工部商工労政課 産業振興のためのサロンの立ち上げ</li> <li>・児童家庭課 「いきいき健康！おおいたっ子まつり」教育福祉学科，学生サークルの児童文化研究会による協力 10/29, 30。</li> <li>・公民館の活用によるまちづくり</li> </ul>
中津市	17. 4. 26 17. 7. 5 17. 11. 6	<p>(実施事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堅田橋の補修・補強調査のアドバイス</li> <li>・ 中津市地域福祉計画策定委員長 山岸教授</li> </ul> <p>(協議・実施事業)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 景観行政の推進について</li> <li>2. 観光と滞在宿泊型観光をリンクさせることにより，中津市の新たなグルメ観光の発掘を図る。</li> <li>3. 地域バス(コミュニティバス)の利用予想調査</li> <li>4. 「中津市木造校舎等研究会」を設置する。</li> <li>5. 港を核とした物流の拡大と，外資にむけた取組み</li> <li>6. 産・学・官が連携した地場企業の振興</li> <li>7. 行財政の効率化・適正化における諸課題</li> <li>8. 地域福祉計画策定に係るワークショップ支援事業</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学開放イベント 協賛出店</li> </ul>
豊後高田市	17. 5. 12 17. 7. 14 17. 12. 5 17. 11. 6	<p>(実施事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・福祉・医療情報提供サービスシステム構築のためのニーズ調査(16～17年度)</li> <li>・報告書作成(17年12月)，H18年度概算要求事項，H19年度概算要求事項</li> </ul> <p>○教職員の指導力養成・校内研修の充実のための講師派遣：「食育」の大切さの研修(高田小の教職員・PTA会員対象)</p> <p>○出前授業への講師派遣：理科「植物採集の仕方」(三重小学校)</p> <p>○「学びの21世紀塾」事業：特別講座での学生の派遣(真玉公民館・香々地公民館)</p> <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹材活用について，造成地の戸建住宅のデザインについて，カヌー競技場の水質浄化法について</li> <li>・大学開放イベント 協賛出店</li> <li>・「泉都別府まちづくり支援事業」審査 医学部杉田教授</li> </ul> <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉を活かした健康医療の研究，都市景観づくり基本案作成等</li> </ul> <p>17. 11. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する講演会 9/29</li> <li>・大学開放イベント 知事による講演会</li> <li>・行政改革推進委員の推薦，地域福祉計画策定，宇佐市電算システムに関する調査・検討，総合型地域スポーツクラブ支援活動について，地域交通計画の策定</li> </ul>
別府市 別府商 工会議 所		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「泉都別府まちづくり支援事業」審査 医学部杉田教授</li> </ul> <p>(協議事項)温泉を活かした健康医療の研究，都市景観づくり基本案作成等</p>
大分県	17. 10. 19 17. 11. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する講演会 9/29</li> <li>・大学開放イベント：知事による講演会</li> </ul>

宇佐市	18. 3. 25	・行政改革推進委員の推薦，地域福祉計画策定，宇佐市電算システムに関する調査・検討，総合型地域スポーツクラブ支援活動について，地域交通計画の策定
-----	-----------	---

資料 2. 3-2 包括連携協定締結自治体

締結先	締結日		締結日
大分市	H16/10/25	竹田市	H17/12/16
中津市	H17/ 1/28/	津久見市	H18/ 2/23
豊後高田市	H17/ 3/ 1	由布市	H18/ 2/28
別府市・別府商工会議所	H17/ 5/25	豊後大野市	H18/ 3/ 2
大分県	H17/ 8/ 8	佐伯市	H18/ 3/ 8
宇佐市	H17/ 8/25	杵築市	H18/ 3/28
日田市	H17/10/27		

## 2. 4. 企業との連携

(現状)

平成 16 年度に株式会社大分銀行，株式会社豊和銀行と，本年度は大分信用金庫，大分みらい信用金庫，株式会社トキハと包括協力協定を締結した(資料 2. 4-1)。金融機関との包括協力協定の締結は全国でも珍しく，特に豊和銀行においては，出張相談会を実施(平成 17 年度 4 回開催)し，地域共同研究センターが大分県の中小企業に対して年間約 100 件の研究シーズを紹介し，共同研究の促進を図っている。

(評価)

銀行等との連携を通して，相談会等が活発に行なわれている。

資料 2. 4-1 包括連携協定締結企業

企業名	締結日	主な連携協力内容
株式会社大分銀行	H16/8/2	・地域振興への貢献 ・共同研究等による地場企業の育成強化 ・ベンチャー企業の育成 ・相互の人材育成
株式会社豊和銀行	H16/8/3	・教育研究活動の連携 ・研究成果の普及，活用促進 ・学習機会の提供 ・中小企業への支援，情報提供 ・地域振興への貢献
大分信用金庫	H17/6/10	・地元産業の発展に寄与 ・共同研究等による地場企業の育成強化 ・ベンチャー企業の育成 ・相互の人材育成
大分みらい信用金庫	H17/6/10	・まちづくりを通じた地域振興の貢献 ・地場産業からの技術相談，研究相談 ・大分大学と地場企業との共同研究の推進 ・中小企業等の創業，新事業支援
株式会社トキハ	H17/5/10	・地域振興への貢献 ・販売戦略に関する共同研究 ・相互の人材育成

## 2.4.1. 共同研究・受託研究

(現状)

共同研究等の受入状況は資料2.4.1-1～資料2.4.1-4のとおりである。

共同研究については、16年度は33%の落ち込みがあるが、本年度は金融機関との協力協定による技術相談実施等の努力により、件数の増加を図っている。

受託研究等については、金額の差があるものの件数の伸びが見られる。

受託研究・共同研究においては工学系が62%を占めている。

外部資金についても、寄附講座の受入を行ったため、若干の金額の伸びが見られるとともに、安定した受入状況が伺える。

(評価)

共同研究件数は一定の増加傾向であるが、受託研究等は金額の伸びが期待される。また、受託研究・共同研究は、企業との連携を充実させることが必要であり、特に医学分野及び文系分野において件数の増加に向けて努力せねばならない。

資料2.4.1-1 共同研究・受託研究等状況 (再掲)

部局	区分	件数	継続区分		研究代表者数		学内分担者
			単年度	複数年	教授	助教授	
教育福祉科学部	受託研究	3	単年度	3	教授 3	3	0
			複数年	0			
工学部	受託研究	11	単年度	9	教授 8, 助教授 3	11	15
			複数年	2			
医学部	受託研究	12	単年度	12	教授 8, 助教授 3, 助手 1	12	0
			複数年	0			
附属病院	受託研究	3	単年度	2	教授 1, 講師 1, 助手 1	3	0
			複数年	1			
受託研究(治験)		92					
計		121					

資料2.4.1-2 共同研究状況

部局区分	共同研究の区分	件数	継続区分		研究代表者数		学内 分担者	民間等研究者
			単年度	複数年	教授	助教授		
教育福祉科学部	共同研究	8	7	1	(教授2名)	2	0	8
	受託研究に含まれる共同研究	1	1	0	(教授1名)	1	0	1
経済学部	共同研究	4	単年度	2	(教授2名)	4	1	6
			複数年	2	(助教授2名)			
工学部	共同研究	36	単年度	26	(教授13名) (助教授7名) (講師1名)	25	33	43
			複数年	10	(助手4名)			
	受託研究に含まれる共同研究	2	2	0	(助教授2名)	2	0	2
医学部	共同研究	2	単年度	1	(教授2名)	2	2	3
			複数年	1				

	経費を伴わない共同研究	4	単年度 複数年	3 1	(教授1名) (助教授1名)	2	0	7
	受託研究に含まれる共同研究	3	単年度	3	(教授3名)	3	0	3
附属病院	共同研究	1	複数年	1	(教授1名)	1	1	4
地域共同研究センター	共同研究	3	単年度 複数年	1 2	(助教授1名)	1	0	3
計		64		64		43	37	80

資料 2.4.1-3 受託事業状況

部局区分	件数
経済学部	1

資料 2.4.1-4 寄付金状況

部局区分	件数
教育福祉科学部	7
経済学部	2
工学部	397
医学部	28
その他	1
計	435

## 2.4.2. 新製品開発・新産業創出への貢献

(現状)

現在は、新製品の開発、特許取得には至っていないが、以下に掲げる各事業積極的に推進している。(資料 2.4.2-1, 資料 2.4.2-2)

- 1 研究シーズ集を発行し、ホームページに研究者情報を公開している。また、研究シーズ発表会(17年度5回開催)を開催し、地域連携活動を積極的に展開している。
- 2 産学官連携推進会議、イノベーションジャパン大学見本市等へ積極的な研究成果の出展を行い、産学官連携促進を図っている。
- 3 豊和銀行との包括協力協定に基づき、出張相談会を実施(平成17年度4回開催)し、地域共同研究センターが大分県の中小企業に対して年間約100件の研究シーズを紹介し、共同研究の促進を図っている。
- 4 大分市が主催する「大分市産学交流サロン」(年間6回程度開催)に本学教員を派遣して企業見学、技術相談を実施し、産学交流になれていない企業への支援を行っている。
- 5 VBLを中心としてベンチャー企業の育成を図っている。

(評価)

研究シーズ発表会、産学官連携促進、出張相談会など積極的な地場企業への支援活動が行なわれ、新製品の創出にも関わっている。

資料 2.4.2-1 大学発ベンチャー一覧表

社会システム総合研究所株式会社	WILLNG
株式会社ゼロテクノ	有限会社ケムテックイノベーションズ
有限会社ニューライム研究社	有限会社オフィス・ラジオロジスト
株式会社ジーマム	株式会社まちづくり白杵
有限会社大分TLO	株式会社ルネスインターナショナル
有限会社グローバル・エンバイロメンタル・テクノロジー	有限会社イーエイジット

資料 2.4.2-2 新製品の創出にも関わったもの

商品名	製品名	担当者	関連企業
虚空蔵「麦酢」	発酵大麦エキス	教育福祉科学部教授	三和酒類株式会社
赤ワイン	赤ワイン	医学部教授	三和酒類株式会社
スッポンジュレまるまるコラーゲン	ゼリー	教育福祉科学部教授	塚崎薬品工業株式会社
しじみ週間	シジミエキス	教育福祉科学部教授	佐々木食品工業株式会社
空気清浄機	空気清浄機	工学部教授	ダイキン工業株式会社
つちカエル	生ゴミ処理機	工学部助教授	株式会社エコアップ

2.5. 地域交流事業の取り組み

(現状)

大学を知ってもらうため大学開放イベントを開催するとともに、地域の人に開放する公開講演会等、その他地域との連携事業を実施しており(資料 2.5-1, 資料 2.5-2, 資料 2.5-3), 地域の行事であるチキリンばやし大会(130人参加), はさまきちよくれ祭りにも参加している。

(評価)

大学開放事業, 公開講演会, その他の地域連携事業とも盛んであり, 十分な地域への交流が行なわれている。

資料 2.5-1 大学開放イベントおよび地域への参加事業

事業名	実施月日	対象者 (参加者数)	実施部局	実施場所	回数	共催等
大分大学開放イベント	11.6	一般市民 (2000)	大分大学	旦野原キャンパス	1	協定した自治体・企業からも協賛出店
大分市ちきりんばやし大会	8.6	大分市民 (130)	(大分大学)	大分市 47万人の広場	1	大分市主催
はさまきちよくれ祭	11.13	挾間町民 (50)	(医学部)	挾間町中須賀グラウンド	1	挾間町主催

資料 2.5-2 公開講演会等開催状況

事業名	実施月日	対象者 (参加者数)	実施部局	実施場所	回数	共催等
VBL セミナー・講演会	通年	学生, 市民一般 (180)	VBL	VBL 他	7	
講演会(中国経済, 司法制度, スポーツビジネス他)	4.22 ~ 1.19	学生, 教職員, 市民一般 (1140)	経済学部	経済学部	5	
講演会(アルコール教育)	5.18	学生, 教職員, 市民一般(250)	保健管理センター	第一大講義室	1	
講演会(福祉工学, 高齢者福祉, 障害者福祉)	6.14~1.3	学生, 教職員, 市民一般(420)	福祉科学研究センター	工学部, 医学部他	3	大分ライフサポート協議会

アントレプレナーセミナー	8.9～8.12	学生, 市民一般(20)	VBL	VBL	4	知的財産本部
講演会・セミナー(遺伝子解析)	9.22	学生, 教職員, 市民一般(80)	先端医工学研究センター	先端医工学研究センター	1	
大分大学福祉フォーラム(第9回)	11.12	学生, 教職員, 市民一般(150)	福祉科学研究センター	大分県社会福祉介護研修センター	1	大分県・日本福祉のまちづくり学会九州支部
福祉系研究者交流発表会	12.15	学生, 教職員, 市民一般(30)	福祉科学研究センター	VBL	1	
講演会(メンタルヘルス)	12.21	学生, 教職員, 市民一般(50)	保健管理センター	保健管理センター	1	
講演会(軽度発達障害)	1.5	教育関係者, 学生, 市民一般(600)	教育福祉科学部心理教育相談室	第一大講義室	1	
大分大学若手研究者発表会	3.7	学生, 教職員, 市民一般(80)	福祉科学研究センター	大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」	1	大分ライフサポート協議会
VBL; ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ						

#### 資料 2.5-3 その他の地域連携事業

事業名	実施日	対象者(参加者数)	実施部局	実施場所	回数	共催等
出前講義, 高校の大学訪問	通年	高校生(出前14回, 訪問13回)	事務局(入試課)	旦野原キャンパス, 挾間キャンパス他	27	
学習ボランティア養成・研修事業	通年	学生, 講座同窓生(20)	生涯学習教育研究センター	学内他	2	
読み聞かせ会	7.16～3.18	小学生(131)	附属図書館	附属図書館	8	
国際シンポジウム(中国経済と日本)	1.14	学生, 市民一般(200)	経済学部	経済学部	1	大分経済同友会
生涯学習出張講座	2.26	市民一般(80)	生涯学習教育研究センター	玖珠町メルサンホール	1	
世代間交流出張講座(宿泊型)	3.4・8	小学校1～3年生とその保護者(43), 高校生1～2年生(17)	生涯学習教育研究センター	九重青少年の家, 香々地青少年の家	2	

#### 2.5.1. 大分大学と各界連絡会等

(現状)

大分大学と大分県内高等学校との連携会議, 大分大学連携病院長懇談会を毎年開催(資料 2.5.1-1)するほか大分商工会議所, 大分経済同友会の会員となっている。

(評価)

一定の連携は行われていると言える。高等学校との連携会議は, 個別な高校との連携事業も進行している。

資料 2.5.1-1 各界との連絡会



会議の名称	開催日	参加者	議題等
大分大学と大分県内高等学校との連携会議	6月29日 (水)	大分県教育庁高校教育課長, 高等学校長協会会長ほか8名, 私立中等高等学校校長会会長ほか2名 学外参加者 計13名	1. 教科間の高大連携について 2. 高大連携を組織的に拡大する可能性について
大分大学連携病院長懇談会	6月22日 (水)	大分県福祉保健部審議監, ほか大分県下の国公立病院長 69名 学外参加者 計70名	1. 医学部長挨拶 2. 附属病院長挨拶・現況説明 3. 来賓挨拶 4. 役員について 5. 新規会員について 6. 臓器別診療体制について 7. 卒後臨床研修について 8. 豊の国臨床試験ネットワーク:その後の動向について 9. 大分大学医学部に対する要望事項等について

## 2.5.2. 大学施設の地域開放

(現状)

施設の有効利用および資金獲得の観点から、教育研究活動に支障のない限り、土曜・日曜・祝日、休暇中を中心に、本学の施設を積極的に地域社会等に開放しており、平成17年度の実績は次表(資料2.5.2-1)のとおりである。

(評価)

平成16年度との比較では、各種資格・認定試験等は同じであるが、その他の使用は大幅に増え、全体的には倍加しており、地域社会に十分達成している。

資料2.5.2-1 教室等一時貸付一覧

使用区分	貸付物件(種目)	貸付相手方	目的	貸付日数
学 会・研 究 会・研 修 会・公 開 講 座等 (14件)	教養教育	財団法人大分県文化スポーツ振興財団	JICA青年海外協力隊募集説明会	1
	医学部	大分市消防局	全国消防救助技術大会(水上の部)に向けた訓練	19
	教育福祉科学部	佐藤 晋治(大分K-ABC研究会)	K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー初級講習会	2
	教育福祉科学部	佐藤 晋治(大分K-ABC研究会)	K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー初級講習会	2
	教育福祉科学部	大分県教育庁義務教育課企画免許班	大分県教育職員免許法認定講習	20
	医学部	吉田克伸	第16回大分県中学校理科研究大会	1
	附属小グラウンド	大分市小教研	大分市小教研・図書館教育部会駐車場	1
	教育福祉科学部	武内珠美	大分県臨床心理士会定例研修会	1
	教養教育	中溝 朋子	青年海外協力隊募集特別説明会	1
	附属小学校	大分市大分西部公民館	西部地区協働のまちづくりフォーラム駐車場	1
	教育福祉科学部	泉 好弘	日本動物学会九州支部ほか	1
	教育福祉科学部	三次 徳二	大分地質学会総会	1
	医学部	横山 繁生	第21回日本臨床細胞学会大分県支部	1

	教育福祉科学部 地域教育実習施設	なかつえ放課後児童クラブ運営委員会	放課後児童クラブ	292
各種資 格・認 定試験 等 (14件)	教養教育	株式会社銀行研修社	第20回金融検定試験	1
	教養教育	学校法人河合塾	第2種電気工事士筆記試験	2
	教養教育	財団法人消防試験研究センター大分県 支部	危険物取扱者資格試験	1
	教養教育	学校法人 河合塾	第二種電気工事士技能試験	2
	教養教育	社団法人大分県火災類保安協会	平成17年度火災類取扱保安責任者等試験	1
	教養教育	大分県庁交友会	平成17年度宅地建物取引主任者資格試験	2
	教養教育棟	大分県福祉保健部	平成17年度大分県介護支援専門員試験	2
	教育福祉科学部	(財)行政書士試験研究センター	平成17年度行政書士試験	1
	経済学部	銀行業務検定協会大分支部	銀行業務検定試験	1
	教養教育	福祉総合評価機構	社会福祉会計簿記初級認定試験	1
	教養教育	(財)消防試験研究センター大分県支部	危険物取扱者資格試験	1
	教養教育	株式会社銀行研修社	第21回金融検定試験	1
	教育福祉科学部	大分中央郵便局長	かんぽLC及び郵便FPA検定試験	1
	陸上競技場 11号教室	松尾卓也	日本サッカー協会公認D級指導者講習会	2
職員採 用試験 等 (7件)	教養教育・教育福祉科学部・ 第3体育館	大分市	平成17年度(夏)大分市職員採用試験	2
	教養教育	人事院九州事務局長	平成17年度国家公務員採用Ⅲ種試験	1
	教育福祉科学部	大分中央郵便局長	郵政公社職員採用試験	2
	教養教育	大分地方裁判所	裁判所職員採用Ⅲ種試験	1
	教養教育	大分刑務所	刑務官採用試験第一次試験	1
	教養教育・教育福祉科学部・ 第3体育館	大分市	平成17年度(秋)大分市職員採用試験第1次試験	2
教養教育・第3体育館・陸上 競技場	大分市	平成17年度(秋)大分市職員採用試験第2次試験	1	
入試・ 入試説 明会・ 模擬試 験等 (10件)	教養教育	熊本大学大学院	平成18年度法科大学院入試説明会	1
	教養教育	代々木ゼミナール福岡校	代々木ゼミナール公開模擬試験	2
	教養教育	大分県立大分豊府高等学校	大分豊府高校2学年 大分大学自学の会	1
	経済学部	東進衛星予備校大分明野校	東進センタープレ入試	1
	教養教育	大分県立大分舞鶴高等学校	模擬試験	1
	教養教育	東進衛星予備校大分明野校	模擬試験	2
	教育福祉科学部	東進衛星予備校大分中央校	模擬試験	1
	教養教育	大分県立竹田高等学校	模擬試験	1
	教養教育	大分県立三重高等学校	模擬試験	2
	教養教育	福岡大学長	入学試験	2
スポ ーツ施 設 利用等 (4件)	教育福祉科学部	麻生和江	九州体育スポーツ学会第54回大会	3
	巨野原野球場	沖縄国際大学 真栄平 いずみ	大学野球練習	1
	第3体育館	久保平 恵子	レクレーション(福祉ボランティア交流会)	1
	附属養護学校体育館	王子中学校クラブ活動	王子中学校	140

### 2.5.3. 大学キャンパス周辺地域との交流

(現状)

平成17年度で7回目となる巨野原キャンパス周辺住民との交流は、「大分大学と地域自治会等との懇談会」として12月16日に、駕野校区公民館を会場として実施した。周辺6自治会の住民、駕野校区自治会長、大分大学前駅長、東植田中学校長の20人の出席があり、大学側は学長・役員、学部長・事務長、学生支援部の課長、学生団体代表等27人が出席した。

挾間キャンパス周辺自治会との懇談会は、行政区が大分市と由布市に跨っていることもあり、実

現していない。

(評価)

旦野原キャンパス周辺住民との交流は、今回から地区に出かけて開催し好評を得ている。

#### 2.5.4. 小中高校生対象イベント

(現状)

小・中学生を対象とした「ものづくり教室」「親と子の大学キャンパス自然観察会」「夏休み子供サイエンス」等10のイベントを実施し、公開講座的7イベントの受講者は251人、参加型3イベントの参加者は2,420人であった。大分市及び別府市内の全小・中学校にPRパンフレットを郵送あるいは配布により広報を行っている。(資料2.5.4-1)

高校生を対象としたイベントとしては、大分大学進学説明会(オープンキャンパス)、学長と語ろうの会を実施しており、その他に、高校生の大学訪問は10校、932人、また、進学に関連した高校生のPTA訪問者は3高校、71人であった。なお、大学の高校訪問による出前講座は延べ14日間(延べ12高校)訪問し、延べ24人の教員が講義を行った。(資料2.5.4-2)

また、高専生のインターンシップは、知能情報システム工学科1人のみであった。

(評価)

小・中学生を対象としたイベントは、大分大学を身近に感じてもらうために必要であり、かなりの成果が期待できる。また、高校生対象のオープンキャンパス、学長と語ろうの会に参加した高校生には非常に好評であった。

資料2.5.4-1 小・中校生対象イベント

事業名	実施月日	対象者(参加者数)	実施部局	実施場所	回数	備考(共催等)	
参加型イベント	ふしぎを体験Ⅲ	8.1(月)・2(火)	小, 中, 保, 教(85)	総合科学研究支援センター R I 実験部門	医学部	2	元素周期表配布
	夏休み子供サイエンス	8.10(水)	小, 保, 教(1800)	工学部	工学部	1	市教委の後援
	たんけんしよう! 科学と技術の不思議な世界 2006	3.18(土)	小, 中, 保(535)	工学部	工学部	2	市教委の後援
公開講座的イベント	親と子の大学キャンパス自然観察会	6.11(土)・10.15(土)	小・保(36/回)	教育福祉科学部	旦野原キャンパス	2	
	夏休み子供造形美術教室	8.2(火)・3(水)	小4~6年生(42/回)	教育福祉科学部附属中学校	附属中学校	2	
	理科や算数を使って親子で遊ぼう	8.6(土)~12.10(土)	小4~6年生・保(33/回)	教育福祉科学部附属中学校	附属中学校他	9	
	携帯電話で身近な植物の電子図鑑をつくろう	10.8(土)~12.12(月)	小4~6年生(30/回)	教育福祉科学部	小学校(宇佐市)	7	市教委の後援
	ものづくり教室 一切って、けずって、はしゃいで、昔風竹遊びー	11.26(土)	小・保(50)	教育福祉科学部	旦野原キャンパス	1	
	ものづくり探検隊	3.4(土)	小・保(30)	教育福祉科学部	旦野原キャンパス	1	
	パソコンでオリジナルカレンダーをつくろう!	3.18(土)	小(30)	総合情報処理センター	総合情報処理センター	1	

注：対象者の小は小学生，中は中学生，保は保護者，教は教諭を示す。

資料 2.5.4-2 高校生対象イベント

事業名	実施月日	対象者 (参加者数)	実施部局	実施場所	回数	備考(共催等)
大分大学進学説明会(オーブンキャンパス)	8.3(水)・4(木)	高校生、保護者等 (1386)	事務局(入試課)	旦野原キャンパス 挾間キャンパス	1	
学長と語ろうの会	8.22(月)	高校生(55)	入試課	旦野原キャンパス	1	

2.5.5. 小中高校教員対象講座

(現状)

本年度は、教育福祉科学部で14の教員対象講座を夏休み期間中(3日～4日の日程)、学外講師5名を含めて15名の講師で開講し、753人の受講者があった。また、教員研修講師として、研修日数61日、延べ講師数94人、受講者2,711人に講義を行った。

(評価)

大分県教育委員会から要請に基づき開設しているものであり、地元からの要請に十分応えている。

2.5.6. 公開講座の方針と開設状況

(現状)

大学開放事業における公開講座の位置付けが課題となっているが、平成18年度に検討することとし、17年度は従来からの企画・運営方法により、16講座を行い348人の参加があった。(資料2.5.6-1)

(評価)

講座数、受講者数とも増加傾向にある。公開講座の位置付けを早期に明確にし、一層の増加を図らなければならない。

資料 2.5.6-1 公開講座状況

番号	講座名	開設期間	開設部局	受講者数	募集人員
1	スポーツ教室	泳げない男の子の水泳教室	工学部	12	10
2		泳げない女の子の水泳教室	教育福祉科学部	13	10
3		ちびっこスイミング男子	教育福祉科学部	12	10
4		ちびっこスイミング女子	工学部	12	10
5		子どもスイミング	工学部	19	15
6	出前	米水津塾	教育福祉科学部	38	40
7	現代社会ウォッチング!	9/6～10/4	教育福祉科学部	2	50
8	子どもに育てたい5つの力	10/1～10/29	教育福祉科学部	5	20
9	理科や算数を使って親子で遊ぼう	8/6～12/10	教育福祉科学部	33	30
10	夏休み子ども造形美術教室	8/2～8/3	教育福祉科学部附属中学校	42	40
11	グローバル化:グローバル化の中の地域経済・社会	10/6～11/24	経済学部	41	70
12	現代医療のトピックス	8/31～10/12	医学部	77	50
13	やさしい画像処理とその応用 ーためしてみよう情報発信ー	8/25～8/26	工学部	12	30

14	親と子が一緒に学ぶ親子コミュニケーション講座	7/23～7/31	生涯学習教育研究センター	30	40
合 計				348	426

## 2.5.7. 公開授業

(現状)

学生向けの科目として開講している講義科目を一般に公開する公開授業は、82科目で合計54人の受講者があった。科目数は2.2倍となったが、受講者は0.7倍と減少している。(資料2.5.7-1)

(評価)

公開授業科目数は毎年増加しており、一応の公開の機能を果たしている。

資料2.5.7-1 公開授業開設状況(平成17年度前期)

番号	講座名	受講者数
1	化学物質と環境影響	2
2	教養ドイツ語 I	1
3	森と人間の文化史	
4	地球と水	2
5	バロック音楽の世界	1
6	水泳学習の科学	
7	現代天文学と SETI	1
8	現代社会と組織	
9	地域と財政	1
10	電気も車もないアーミッシュ社会	
11	エレクトロニクスの世界 I	
12	福祉と工学技術	
13	生涯学習論入門	1
14	環境物理学	2
15	人間と環境	1
16	体育学概論	
17	博物館学概論	3
18	表現基礎実習 B II (ピアノ)a	

番号	講座名	受講者数
19	宇宙科学	1
20	住環境論	
21	哲学概論 II	1
22	臨床心理学	3
23	マルチメディア情報処理	2
24	数学概論(小)	2
25	人間関係論	2
26	西洋文学論	1
27	環境科学概論	
28	漢文学史	1
29	ダンス・ダンス創作活動	
30	英語教材研究	
31	社会心理学	6
32	生涯学習概論 I	
33	レクリエーション概論	
34	契約法	2
35	地域発展論 I	
36	労使関係論	1

番号	講座名	受講者数
37	経営学 I	
38	企業ファイナンス論 I	
39	労働関係法 I	
40	都市経営論 I	
41	電気工学概論 I	
42	教育本質論	
前期合計		37

募集人員は、各課目 10 名

公開授業開設状況(平成17年度後期)

番号	講座名	受講者数
43	健康保持の社会システム	1
44	人間と教育	
45	教養ドイツ語Ⅱ	
46	東アジア史の諸相	1
47	半導体の作用と応用	1
48	大分の水	
49	いやしの音楽	1
50	地球と生命の歴史	3
51	社会認識と自己形成	3
52	身近な物理学	2
53	メディアリテラシー	1
54	雇用労働の変化と経済・暮らし	2
55	家族と法	1
56	地域社会へのまなざし	
57	グローバル産業入門	1
58	機械と文明	
59	生涯学習社会を創る	
60	英語科授業論	
61	哲学概論Ⅰ	2
62	地域と環境	
63	都市緑化論	

番号	講座名	受講者数
64	スポーツ社会学	
65	日本東洋美術史	3
66	家庭科指導法(小)	2
67	生活環境とホルモン	1
68	表現形式総合論Ⅱ	
69	地域発展論Ⅱ	
70	現代中国社会学	1
71	統計学Ⅱ	
72	経営学Ⅱ	2
73	企業ファイナンス論Ⅱ	
74	現代資本主義論Ⅱ	
75	労働関係法Ⅱ	
76	都市経営論Ⅱ	
77	数値解析	
78	教育本質論	
79	臨床心理学演習	2
80	漢文学講読	1
81	MOT特論(入門編)	14
82	MOT特論(応用編)	9
後期合計		54

募集人員は、各課目 10 名、MOT 特論のみ 25 名

## 2.6. 医療機関との連携

(現状)

医学部および医学部付属病院の医師延べ 695 人を、地域の医療機関に非常勤医師として派遣している。

(評価)

医学部地域医療対策委員会において検討し、透明性を確保した結果の人数であり、地域医療のニーズに応える努力を行っている。

## 2.7. 教員の社会的活動

### 2.7.1. 審議会等の活動

(現状)

約 400 名が国、県、その他公的機関や公益法人等で活動するほか、約 800 名が非常勤講師や非常勤医師として地域の活動を支えている。(資料 2.7.1-1)

(評価)

教員が各専門知識、経験を活かし、各分野、各方面において、地域・社会の要請に十分に役立っている。

資料 2.7.1-1 兼業状況

種 別	学部等別のべ人数(人)						内 容	
	教 (104)	経 (64)	医・病 (275)	工 (119)	その他 (28)	計 (590)		
教育に関する兼業(教特法 21 条に準ずる)	1 非常勤講師	49	24	17	9	0	99	私立大学, 公立大学, 放送大学等
	2 委員会	32	1	0	1	0	34	教育委員会等
	3 その他	7	1	0	1	0	9	大分県教育センター, 博物館, 史料館, 青年の家等
教育以外に関する兼業(国公法 104 条に準ずる)	4 地方公共団体等	49	20	26	24	28	147	県市町村, 県市町村付設の機関等
	5 公益法人等	5	9	20	18	15	67	財団法人, 社団法人, 社会福祉法人, 特殊法人等, 特定非営利活動法人等
	6 非常勤医師	0	0	695	0	0	695	
	7 その他	5	5	5	0	5	20	裁判所, 学会等
国等	8 国立大学法人等	15	1	12	12	0	40	国立大学法人, 高専等
	9 国の行政機関	16	7	9	7	2	41	省庁, 省庁所管の公益法人, 独立行政法人等
営利企業	10 営利企業の役員	0	3	1	5	0	9	有限会社・株式会社(技術移転・研究成果活用・監査役)
	11 営利企業の役員以外	1	1	4	1	0	7	有限会社・株式会社等
計		179	72	789	78	50	1168	

注: 1 その他には、福祉社会科学研究科及びセンター等の専任教員を含む。

2 ( )内の数字は、平成 17 年度の在籍教員数

### 2.7.2. 学外での講演等

(現状)

本学の教員が自らの専門知識、経験等を直接的な形で社会や地域に還元する活動の一つとして、学内のみならず、学外においても、講演活動等を活発に行っている。(資料 2.7.2-1)

(評価)

教員が各専門知識、経験を活かし、地域・社会の要請に概ね役立っている。

資料 2.7.2-1 学外での講演等活動件数

部局等	教育福祉学部 (104)	経済学部 (64)	医学部 (275)	工学部 (119)	福祉社会科学 研究科(2)	センター (26)
件数	45	3	158	45		3

( )内の数字は平成 17 年度の在籍教員数

### 3. 国際交流

#### 3.1. 研究者および留学生の交流

(現状)

現在、国際交流協定締結校は、中国 9、韓国 9、アメリカ 4、ドミニカ 2、オランダ 1、イギリス 1、ドイツ 1、タイ 2、インドネシア 1、フィリピン 1、ポルトガル 1、台湾 1 の 33 校(病院を含む；学部間協定校を含む)があり、うち 23 校が学術交流を、また 29 校が学生交流を目的としている。これら協定締結校及び協定締結校以外との研究者及び学生の交流状況は、次表(資料 3.1-1、資料 3.1-2)のとおりである。

協定締結校からの学生交流では、受入学生のうちアジア地域からが 80%弱を占めているが、派遣学生はアジア地域とアメリカ・ヨーロッパの英語圏とが半数ずつとアジア地域が増加したものの受入超過の状況は変わらず、派遣を促進する方策が必要となっている。また、協定締結校以外の研究者の交流では、派遣が受入の概ね倍数となっている。

なお、平成 17 年度では、韓国の協定校 3 大学から約 60 名の学生が、語学研修等により留学生センターを訪問している。(資料 3.1-3、資料 3.1-4)

(評価)

協定校数、受入留学生数及び協定校以外を含めた交流とも順調に増加している。

資料 3.1-1 研究者および留学生の交流状況(交流協定締結校)

地域	大学名	国又は地域	締結年月日	交流内容	研究者		学生	
					派遣	受入	派遣	受入
北米	サンフランシスコ州立大学	アメリカ合衆国	1972. 11. 27	学生交流	/	/		2
	テキサス大学オースチン校	アメリカ合衆国	1990. 08. 09	学術交流 学生交流			3	3
	ノースカロライナ大学シャーロット校	アメリカ合衆国	2003. 12. 16	学生交流	/	/	2	3
	メリーランド大学ボルティモア校	アメリカ合衆国	2004. 05. 23	学術交流			/	/
中南米	サントドミンゴ自治大学	ドミニカ共和国	1989. 12. 14	学術交流			/	/
	ルイス・エドワルド・アイバール病院 (医学部と学部間協定)	ドミニカ共和国	1996. 12. 13	学術交流			/	/
ヨーロッパ	ティルブルグ大学	オランダ	1990. 09. 18	学生交流	/	/		1
	バーススバ大学	イギリス	1997. 04. 07	学生交流	/	/	2	
	パダボーン大学	ドイツ	1997. 09. 09	学生交流	/	/	2	5
	ポルトカレンセ大学	ポルトガル	2001. 07. 13	学生交流	/	/		
アジア	江漢大学	中華人民共和国	1989. 11. 24	学術交流 学生交流				4
	河北医科大学(医学部と学部間協定)	中華人民共和国	1992. 01. 26	学術交流 学生交流				2
	中華人民解放軍軍医進修学院 (医学部と学部間協定)	中華人民共和国	1992. 01. 30	学術交流			/	/
	遼寧師範大学	中華人民共和国	1996. 03. 26	学生交流				3
	香港大学	中華人民共和国	1999. 06. 24	学術交流 学生交流				1



河北師範大学	中華人民共和国	2000.07.17	学術交流 学生交流			1	1
華中科技大学	中華人民共和国	2002.03.12	学術交流 学生交流				3
深圳大学	中華人民共和国	2003.03.27	学術交流 学生交流			5	4
南陽理工学院	中華人民共和国	2004.07.06	学術交流 学生交流				3
東海大学	台湾	2003.02.20	学生交流				3
南ソウル大学校	大韓民国	1995.12.11	学生交流				4
忠州大学校	大韓民国	1996.03.12	学術交流 学生交流			0	0
西京大学校	大韓民国	1997.02.28	学術交流 学生交流			1	3
密陽大学校	大韓民国	2000.06.22	学術交流 学生交流				2
嶺南大学校	大韓民国	2003.09.08	学術交流 学生交流				1
ソウル女子大学校	大韓民国	2003.12.05	学生交流				5
高麗大学校	大韓民国	2004.02.20	学術交流 学生交流			2	5
梨花女子大学校	大韓民国	2004.08.03	学術交流 学生交流				1
順天大学校	大韓民国	2005.08.19	学術交流 学生交流				
バンドン工科大学	インドネシア	2003.08.12	学術交流 学生交流				1
サン・ラザロ病院（医学部と学部間協定）	フィリピン共和国	2001.11.09	学術交流 学生交流	4	3		8
チェンマイ大学	タイ	2005.08.05	学術交流 学生交流				
コンケン大学	タイ	2006.03.08	学術交流 学生交流				
合 計				4	3	18	68

注意 1) 協定校は平成 18 年 3 月末現在

資料 3.1-2 研究者および留学生の交流状況（交流協定締結校以外）

	大 学 名	国又は地域	交流内容	研究者		学生	
				派遣	受入	派遣	受入
北米	アリゾナ大学	アメリカ合衆国	共同研究	1			
	ペンシルバニア大学	アメリカ合衆国	学会講演と教室員との交流		1		
	コーネル大学	アメリカ合衆国	研究	1			
	アルバータ大学	カナダ	教育研究支援プロジェクト	1			
中南米	サン・マルティン病院	アルゼンチン	医療トレーニング		1		
	ペニンシュラ医学校	イギリス	研究		1		
ヨーロッパ	ブライトン大学	イギリス	共同研究	2			
	ヴェルツブルグ大学	ドイツ	研究				1
アジア	武漢大学口腔医学院	中華人民共和国	講演及び研究指導	1			
	済南大学	中華人民共和国	講演及び研究打合せ	1			
	フータン大学	中華人民共和国	講演及び研究打合せ	1			
	台北栄民総病院	台湾	医療トレーニング		1		

嘉義大学	台湾	学術調査	1			
長庚記念病院	台湾	技術修得と基礎研究	1			
慈濟大学	台湾	研究				1
翰林情報産業大学	大韓民国	客員研究員		1		
キョンオン大学校	大韓民国	客員教授		1		
タイ国赤十字研究所	タイ	JSPS 論文博士取得希望者支援		2		
マヒドン大学	タイ	学術交流	1			
マラリアセンター	カンボジア	共同研究	3		1	
国立衛生疫学研究所	ベトナム	JSPS 拠点大学交流流事業	2			
ボンベイ病院	インド	研究		1		
アスイト大学附属病院	エジプト	医療トレーニング		1		
合 計			16	10	1	2

資料 3.1-3 その他の国際交流状況

本 学 学部・研究科	国際交流の内容	実施期間	国 名	機 関 等 名	備 考
医学部感染分子病態制御講座(微生物学)	厚生労働省科学研究費 国際医学協力事業	平成 17 年 7 月 24 日 ～ 平成 17 年 8 月 1 日	アメリカ合衆国	日米医学協会の	
総合科学研究支援センター 病原体・感染症部門	厚生労働省科学研究費 国際医学協力事業	平成 17 年 7 月 24 日 ～ 平成 17 年 8 月 1 日	アメリカ合衆国	日米医学協会の	
福祉科学研究センター	講演会: ロボットのボディと頭 脳の統合 - 適応型制御から認 知型制御へ-	平成 18 年 3 月 7 日	アメリカ合衆国	ヴァンダービルト大学	共催: 大分 ライフ サポート 協議会
医学部(医学科) 医学部(看護学科) 保健管理センター	科学研究費補助金による共同 研究の一環として	平成 17 年 11 月 13 日 ～ 平成 17 年 11 月 20 日	ドミニカ共和国	国立糖尿病内分泌 栄養研究所	派遣: 教員 2 名
大分大学	派遣留学生受入調査	平成 18 年 2 月 6 日 ～ 平成 18 年 2 月 20 日	イギリス オランダ ドイツ	パーススパ大学 ブリストル大学 パース大学 テイルブルク大学 パタボーン大学	
〃	講演会: 21 世紀の福祉社会を考 える - スウェーデンの地方自 治体の取り組みに学ぶ	平成 18 年 3 月 25 日	スウェーデン	メーラダーレン大学他	共催: 大学 院福祉 社会科学 研究科
医学部感染分子病態制御講座(生物学)	共同研究	通年	チェコ共和国	ブルノ獣医大学	
大分大学	協定校訪問	平成 17 年 9 月 13 日 ～ 平成 17 年 9 月 19 日	中華人民共和国	河北師範大学 北京外国語大学 遼寧師範大学	
大分大学	協定校訪問	平成 18 年 2 月 21 日 ～ 平成 18 年 2 月 25 日	台湾	東海大学	
教育福祉科学部附 属養護学校	姉妹校提携協定調印式	平成 17 年 9 月 11 日 ～ 平成 17 年 9 月 14 日	大韓民国	ミラル学校	
大分大学	韓国協定校との学生交流 (受入)	平成 17 年 6 月 30 日 ～ 平成 17 年 7 月 2 日	大韓民国	密陽大学校 忠州大学校 南ソウル大学校	

大分大学	協定校訪問	平成 17 年 9 月 7 日 ～ 平成 17 年 9 月 10 日	大韓民国	高麗大学校 梨花女子大学 ソウル女子大学	
大分大学	来訪	平成 18 年 2 月 24 日	大韓民国	東新大学校	
経済学部	国際学生フォーラム (於：チェンマイ大学)	平成 17 年 8 月 3 日 ～ 平成 17 年 8 月 6 日	タイ	チェンマイ大学	大分大学 参加者 (教員 4, 学生 18)
大分大学	協定校来訪	平成 18 年 3 月 8 日 ～ 平成 18 年 3 月 9 日	タイ	コンケン大学	
医学部感染分子病 態制御講座(生物 学)	共同研究	通年	マレーシア	マラヤ大学	

資料 3.1-4 学部別に見る主な国際交流活動

学 部	交 流 大 学 等	交 流 内 容
教育福祉科学部	韓国自閉症養護学校「ミラル学校」	研究者および学生交流
経済学部	中国の数校の大学	国際シンポジウム開催
	香港大学	学生の語学研修派遣
医学部		スマトラ沖地震での医療援助活動
		ベトナムへの医療援助
		ドミニカ共和国への医療援助
工学部	密陽大学	日韓共同シンポジウム開催
	中国, 韓国の大学	日中韓建築デザインキャンプ
	韓国の大学	応用電磁現象に関する日韓国際シンポジウム

### 3.2. 大分大学国際交流・学術振興基金の運用

(現状)

本年度の予算は総額 900 万円であり、国際交流事業に 818 万円、学術振興事業に 82 万円が交付された。(資料 3.2-1)

国際交流事業の内訳は、留学生の受入れ事業、学生の海外派遣事業、研究者の海外派遣事業、外国人研究者等の招聘事業、国際研究集会等の開催事業、その他の国際交流に関する事業であり、学生関係の両事業への交付が 438 万円と大きなウエイトを占めている。

学術振興事業の内訳は、学術に関する研究の推進事業、地域社会との学術交流事業、その他学術振興に関する事業となっている。このように、基金は様々な分野で活用されているが、現在の基金の枠内では必ずしも全ての要求に応じることができず、さらに、基金は減少を続けているので、新たな基金の確保が必要になっている。

なお、医学部の国際交流基金は、本年度の予算は 300 万円であり、その用途は、協定校からの研究者の受入れ、協定校訪問、協定校への学生引率等であった。

(評価)

基金の予算額は前年度と同金額であるが、予算の範囲内で有効に活用されている。

資料 3. 2-1 平成 17 年度国際交流・学術振興基金の事業及び予算

事業の名称		事業の内容	予 算
国際 交 流 事 業	学生の海外派遣・留学生の受入れ事業	本学に在学する外国人留学生で、経済的に困窮する私費外国人留学生に対する助成	228 万円以内
		本学に在学する外国人留学生以外の学生を、外国の大学に派遣するための助成	210 万円以内
	研究者等の海外派遣事業 注 1)	海外での学術研究集会に出席し発表、報告等を行う研究者等及び事務職員の海外派遣研修等への助成	100 万円以内
	外国人研究者等の招へい事業 注 1)	滞在する研究者等にかかる助成	90 万円以内
	国際研究集会等の開催事業 注 1)	本学が主催又は共催する国際研究事業への資金助成	20 万円以内
	その他国際交流に関する事業 注 1)	協定校との交流実施にかかる経費の助成、外国に対する大学広報にかかる経費の助成、その他学長が必要と認めた事業への助成	170 万円以内
学 術 振 興 事 業	学術に関する研究の推進事業 注 1)	学会開催、学術講演会等への助成	82 万円以内
	地域社会との学術交流事業	大学開放行事への助成	
	その他学術振興に関する事業 注 1)	その他学術振興に関する事業で学長が特に必要と認めた事業への助成	
合 計			900 万円

注 1) 医学部を除く

予算の上限額 900 万円(医学部を除く)

### 3.3. 国際医療体制及びその実績

(現状)

ドミニカ共和国、インドネシア協和国アチェ州及びベトナムにおいて、資料に記載された活動を行った。(資料 3. 3-1)

(評価)

ともに本学の医療技術の高さを示す事業であり、また、継続して行なわれており、貴重な国際貢献となっている。

資料 3. 3-1 国際医療貢献状況

対 象 国	プロジェクト名	派遣内容
ドミニカ共和国	中米カリブ地域対象画像診断技術向上プロジェクト	医師及び放射線技師を 2 回、延べ 3 月間
インドネシア共和国アチェ州	スマトラ沖地震被災地復興状況調査及び医療・医学教育支援	4 名の医師・看護師及び臨床工学技師を 8 日間派遣
ベトナム	口唇口蓋裂患者の手術・指導及び学生の国際医療協力実習	4 名の医師・看護師及び学生 2 名を 8 日間派遣

### 3.4. その他の活動

(現状)

国際交流協定を締結している大学等の大半がアジア地域であり、特に発展目覚しい中国における本学の拠点として、大分市と友好都市である武漢市の大分市事務所内に「大分大学事務所」を平成18年5月に設置する予定にしている。

(評価)

本学初めての海外拠点であり、大いに活用しなければならない。

## 4. 同窓会との連携

### 4.1. 同窓会との連携

(現状)

本学の同窓会は学部学科等单位組織されているため、大学との連携とともに同窓会相互の連携確保を目的として、各同窓会と合同した交流会を大分地区(大分県内在住者対象)及び関東地区(関東地区在住者対象)で開催した。平成18年度には関西地区で開催する予定にしている。

(評価)

今年度の実施が大学として初めての事業であり、一定の成果が上がっている。

## 5. 社会貢献活動に対する評価

地域との連携は、特色ある連携方法である大分県内の全市との協定締結、企業との協定締結が順調に進捗している。それにともなって、技術相談会の実施等それらの成果も着実に出てきている。更なる連携体制として平成18年度からはイノベーション機構の設置が決定している。また、公開講座・施設の開放等の地域連携事業も盛んに行なわれており、本学の地域における知的拠点としての機能をほぼ十分に活用し支援していると言える。

国際交流関係では、協定校の増加、研究者の交流等、数・質とも順調に推移している。